Newsletter　URL:www.savechildren.or.jp　0120-317-502

world's children

Save the Children JAPAN　発行元　社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047　東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F　Phone:03.6859.0070【新住所】

Fall 2008 No.45

どこよりも早くどこよりも多くの人々を ミャンマー災害緊急支援



ミャンマーでは大型サイクロンによる被災者数が推定240万人にも上ります。
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下SCJ）では、いち早く支援を開始し
現地駐在員と緊急に現地入りした計４名の日本人スタッフが活躍しています。

大型サイクロンの爪痕

2008年5月3日未明、大型サイクロン「ナルギス」がミャンマー南部を直撃。これを受け、ミャンマー政府は、被害の大きい5つの地域に対して被災地域宣言を出しました。公式発表では死者84,000人・行方不明者53,000人となっています。国連の推定では被災者数は240万人にも上り国際社会から大きな注目を集めることになりました。

被害状況

ヤンゴンを含む被災地では、数カ月たった現在でも根こそぎ倒れた大木があちこちに見られます。80万人に上る人々が家を失ったほか、約100万人が農業や漁業、家畜、養殖業などの生計手段を失いました。以前から子どもたちの栄養状態が芳しくなかった被災地域では、更に悪化することが懸念されています。多くの人々が農地、耕作地を失った結果、国内全体の食糧不足も危惧されています。また、学校校舎約4,000棟が半壊または全壊し、小中高等学校の生徒約110万人の就学機会に影響がありました。

セーブ・ザ・チルドレン（以下SC）の支援活動

SCは、同国で1995年から活動しており、1,300人のスタッフが現地で活動を展開している最大の国際NGOの一つです。SCJも日本人スタッフを常駐させ、2001年より子どもの健康・栄養事業を中心に活動しています。SCは13年間の活動経験を活かし、被災直後から効率的かつ迅速に救急援助活動を展開しています。また、緊急支援のための現地体制を増強させ、現在では900人を超える現地スタッフが被災地で支援活動に当たっており、災害後3カ月間で50万人を超える被災者への支援を実現しました。こうした迅速な支援活動は現地及び国際社会からも注目されています。また、SCは特に教育と子ども保護の分野において国連児童基金（ユニセフ）と共にリードを取り、被災地で活動する国際機関や援助団体間の支援調整も行っています。



日本人スタッフ現地で活躍

SCJは世界各国のSCの中でもいち早く支援を開始し、災害後1カ月間で3万を超える被災家庭に対し、食糧や緊急物資の配給を行ったほか、学校の修復支援や仮設学校の設営、学習教材及び文具の配布を行いました。また、日本の自治体が防災備蓄用に保存しているものの中から寄贈された乾パン1.2トン（7,680パック）を被災家庭計1,949世帯に配給、子どもたちの手元に確実に届けました。駐在していた杉本スタッフに加え、被災後にミャンマー入りした和田スタッフ、園田スタッフ、大須賀スタッフの計4名の日本人スタッフがそれぞれに現地で活躍しています。

栄養・保健医療活動

SCの推定では、災害以前にすでに3万人の子どもたちが栄養不良だったとされており、被災後のさらなる悪化が心配されます。SCはアクセスが困難な被災地においてボートによる移動式クリニックを運営し、基礎医療サービスの提供を行うと共に栄養改善に向けた支援を実施しています。これまで延べ18,000人を診察し、子どもの健康状態の改善のほか、母親や保護者に乳幼児ケアに関する指導を行っています。

子どもたちを守る場所

災害でトラウマを負った子どもたちには、他の子どもたちと遊んだり学んだりすることができる安全な場所の確保が大変重要です。SCは子ども支援活動の豊富な経験を活かし、世界各地の被災地においてチャイルド・フレンドリー・スペース（Child Friendly Space）の設置・運営を行い、専門家による必要な技術や知見を提供しています。ミャンマーにおいても、140ヶ所設置し、20,000人を超える子どもを支援しています。また、災害後に親や家族と離れ離れになった子どもたちのために、家族や親戚との再会支援を行っており、3ヶ月間で1,000人を超える子どもたちを支援しました。

困難だからこそ必要な緊急教育支援

数千に上る学校の校舎が倒壊、あるいは損壊し、多くの子どもたちが学習教材を失いました。しかしながら緊急援助活動における教育支援の重要性はなかなか認知されず、寄付も集まりにくいのが現実です。それでも、災害後の教育支援は、被災した子どもたちの生活を復興する最善の方法だということを私たちは経験から確信しており、強く訴えかけています。ミャンマーにおける緊急教育支援として、計500校以上に対し学校の修復あるいは仮設校舎の建設を実施するなど、70,000万人を超える子どもを支援しています。

中長期的支援計画

SCは、災害復興支援を2年計画として展開していきます。災害発生から1ヶ月までを第1段階、3ヶ月目までを第2段階、9ヶ月目までを第3段階（現在）、24ヶ月目までを第4段階として、支援していきます。子どもが十分な食事を取り、安心して学校に通えるような環境を整えることを目指しています。

SCでは、災害を乗り越えて、ミャンマーでの貧困や栄養不良の状態にある子どもへの支援を引き続き展開していきます。



子どもの権利ってなに？教えて！

コラム

「子どもの権利」

子どもたちを苦しめている問題は、国の内外を問わず山積しています。守られるべき「子どもの権利」はどこに！？SCJは、「子どもの権利」の理解・推進を目指し、情報の発信源となる「チャイルド・ライツ・センター」を開設しました。3回目となる本連載コラムは、昨今増え続けている自然災害や紛争により苦しめられている子どもたちの権利について考えます。紛争や災害時になすすべの無い子どもたち。本来守られるべき彼らが持つ権利とはどのようなものなのか？国連「子どもの権利条約」の該当条項を取り上げわかりやすく解説します。

第3回「緊急支援-子どもたちに安全・安心の提供」

地震やハリケーンなどによる自然災害時、食糧や医療支援が緊急に実施されます。同時に、壊れた学校や幼稚園の修復など教育支援が実施されます。「緊急時、なぜ教育支援なのですか?」と私たちも尋ねられることがあります。その理由は、すべての子どもに付与される教育機会の保障に留まりません。学校や幼稚園が安全と安心を提供する場となり、子どもの生存と発達の権利（子どもの権利条約6条）を保障するという、もう一つの重要な意味を持つからです。

災害など日常の生活が奪われた環境では、略奪や人さらい、社会的弱者である子どもに対する暴力が多発します。また、愛する家族や友達を亡くし、心の傷や心理的ストレスを抱える子どもたちが多くいます。学校や幼稚園は子どもの身を守り、余震への備えや緊急時の対応を習う「安全確保の場」となります。また、勉強や遊びに集中すること、友達と一緒に遊び、語り合うことで、悲しい経験を和らげる「安心の場」ともなります。

子どもの生存と発達の権利は、子どもの権利条約において基本原則の一つと呼ばれ、教育権など他の子どもの権利を内包する非常に重要な権利と言えます。どんな状況や場面においても、大人と同様に、生きる権利（安全に生活する権利）が保障されなければなりません。そして、子どもが成長する存在ということから、発達する権利も十分に保障されなければなりません。

SCでは、他の子ども支援団体と共に、緊急時においても、学校や幼稚園における教育支援を重要な支援の一つとして実施しています。

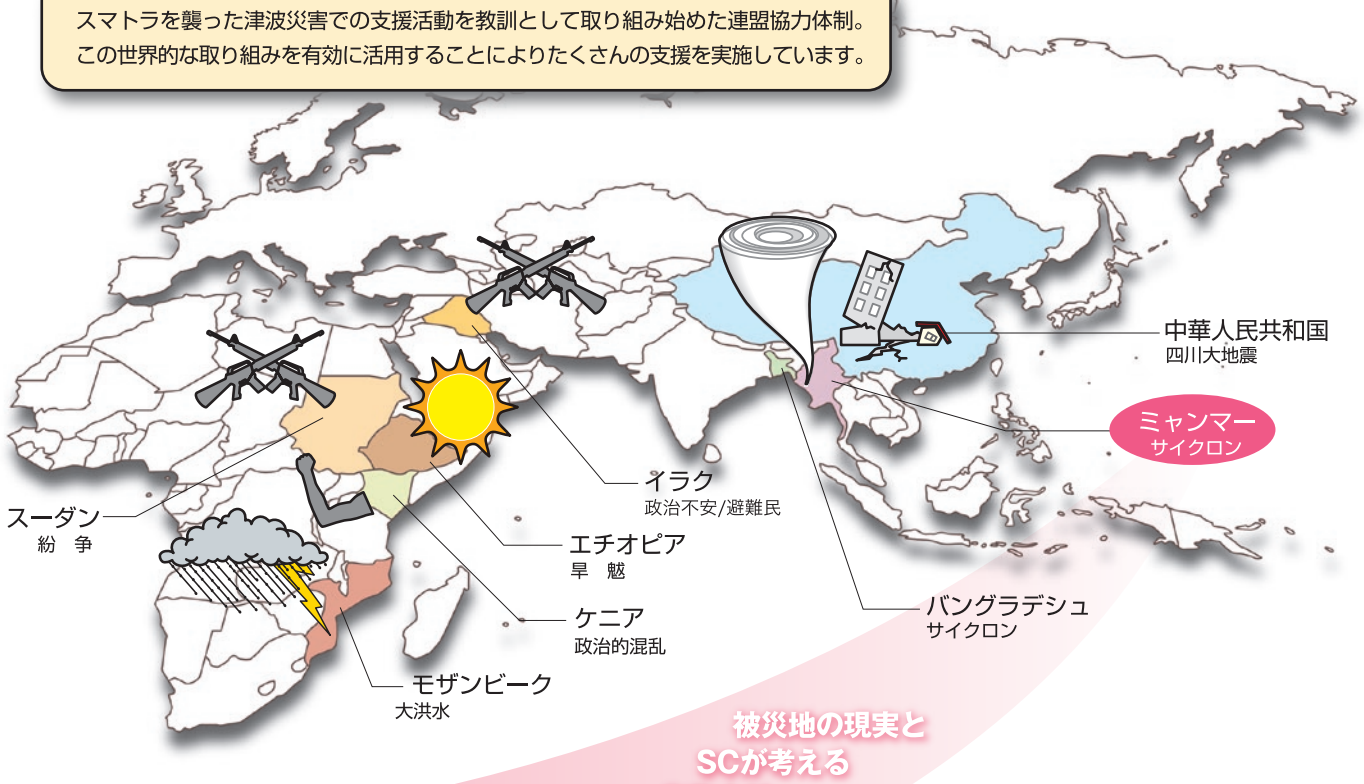
DATAで見るSC
セーブ・ザ・チルドレン

世界で起こる紛争や自然災害。どれくらい増えているか知ってますか？

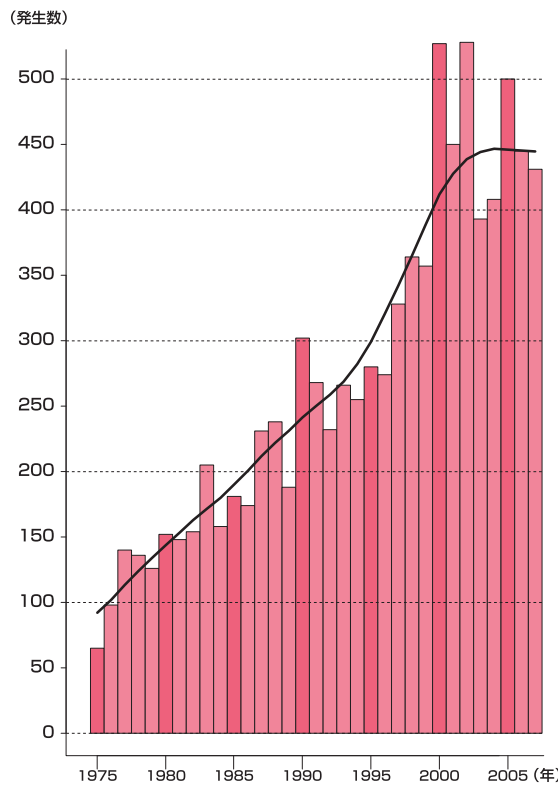
近年至る所で起きる紛争や自然災害、中でも地球温暖化が原因とされる自然災害は加速度的に増えています。
どんな時でも一番被害を受けるのは子どもたちです。SCでは増え続ける災害などで緊急支援を必要とする子どもたちを守るべく2007年に緊急時における連盟協力体制を強化しました。これによりSCの世界最大のネットワークを活かし、一つとなって取り組むという方針のもと、緊急援助調整チームが段取りをしてまとめることで、より一層迅速かつ効率的な活動を行っています。

現在SC全体で取組んでいる緊急支援

スマトラを襲った津波災害での支援活動を教訓として取り組み始めた連盟協力体制。
この世界的な取り組みを有効に活用することによりたくさんの支援を実施しています。



1975年～2007年までの自然災害発生推移



※ベルギーのルーバン・カトリック大学疫学研究所（CRED）の自然災害に関する統計データ

中長期計画

ミャンマーサイクロン「ナルギス」の場合

SCでは災害などによる緊急支援はもちろん、被災地の2年後3年後も見据えた復興支援を展開しています。
被災地では世界の関心が薄れた後もきびしい現実が子どもたちを襲っています。

災害発生から

第1段階 命を守る ～1ヶ月

緊急支援物資配給

食糧、浄水タブレット、プラスチックシート、調理器具、経口補水塩などの緊急物資の配布。



第2段階 子どもたちに安全・安心を ～3ヶ月

緊急教育支援

教室など屋根の補修、防水シート、黒板、チョーク、ノート、鉛筆、消しゴム、クレヨンなど学習教材の配布。



第3段階 生計の建て直し ～9ヶ月

緊急漁業復旧支援

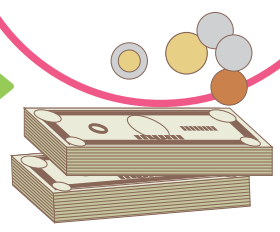
食糧の確保及び生計の建て直しを目的に、ボートと魚網を配布。



第4段階 地域経済の復興 ～24ヶ月

生計支援

マイクロファイナンスによる融資。また、地域全体の経済活性化のための研修を実施。



被災地の子どもたちに本当に必要な事とは

SCでは、いちばん被害を受ける子どもたちが本当の意味で立ち直る事を目標として活動しています。食糧を確保し、家庭の収入を改善することにより、子どもたちが学校へ戻り学習機会を持つ事ができます。また、学校で友だちと学びふれあう事で心のケアも行う事ができるのです。




子どもたちに熱心に教えるようになったアフガニスタンの先生

〈一度でもご寄付をいただいた皆様へ〉継続寄付のお願い

私たちセーブ・ザ・チルドレンは、長期的な視点で支援活動を行っています。たとえば、教育。学校に行くことのできない子どもたちのために、学校を建設するだけでなく、学校に行かせたくないとする親の説得、先生の研修、学校と地域が協力できるようなコミュニティの形成、そして、学校に行く以前の問題である医療や健康のサポートも欠かせません。様々なアプローチで子どもの未来を開く。そのためには、一時的な援助ではなく、継続的な支援が必要なのです。月1500円からはじめられる「SCサポート」をはじめてみませんか。皆様からいただいたご寄付がどう使われ、子どもたちの生活をどう改善しているかのレポートも年2回送付いたします。お申込みはホームページまたはフリーダイヤルまで。あなたの継続的なご支援を、子どもたちが待っています。よろしくお願いします。

年2回レポート
SC SC Support

SCサポート 1500円から／月

インターネットから簡単に申込みできます。口座振替でもクレジットカードでも。
www.savechildren.or.jp セーブ 検索
フリーダイヤルでも受付中。資料請求だけでも結構です。 0120-317-502（平日9:30～18:00）

＊東京本部は右記に移転致しました。　〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4F　TEL 03-6859-0070　FAX 03-6859-0069

From SCJ



和田美穂（わだみほ）
大阪大学　人間科学部社会学専攻
米国スクール・フォー・インターナショナル・トレーニング大学院　修士課程修了
1993年よりSCJ勤務。数々の事務所長を歴任し、2008年5月より2回目のミャンマー駐在

ミャンマーレポート

サイクロンの災害緊急支援活動中のミャンマー。駐在員の和田スタッフから、現地の様子と活動状況についてレポートが届きました。

ミャンマーでの生活は日本と比べてどうですか。

せわしくて、刺激の多い日本での生活に比べ、のんびりしていて、心に余裕があります。日本だと、次々と新奇だったり、便利だったり、美しかったりするモノやサービスが、新たに売りに出され、欲望が刺激されますが、こちらでは、もっと平静でいられるような気がします。

日本と比べて違う点。また、共通する点はありますか。

ミャンマーの人々は、思った事を口に出しません。日本人も、そういうところがありますが、それはミャンマー人に似ているように思います。

違うところは、挨拶がないところでしょうか。ビルマ語には、「おはようございます」、「こんにちは」、「さようなら」、「失礼します」にあたる言葉がないのです。

人々は、日本や日本人についてどう思っていますか。

ミャンマーには他の開発途上国のような欧米崇拝や欧米志向があまりなく、同じアジアの国として日本に親しみと好感を持っているようです。はっきりと言葉にしなくても、なんとなく空気を読んでくれる日本人とのコミュニケーションの方が、欧米人に比べて気楽だと思っているようでもあります。

現地に行って、一番課題であると感じたのはどんなことですか。

ミャンマーでは自由なNGO活動が許されていないので、現地NGOがほとんどありません。社会奉仕活動をするミャンマー人のグループも困っている人や貧しい人に寄付するチャリティ活動が主です。現状では容易ではないですが、社会を巻き込んで、人の意識を変え、制度を改善することにより、問題を解決し、社会をよい方向に変えていこうとする意識のある人や団体を育てていくのが、今後、課題だと思います。

サイクロン災害の直後に駐在を開始されていますが、実際にサイクロンの爪痕を見てどうでしたか。

１ヶ月半してから、緊急支援活動地に行くことができました。海に近い村では、４～５メートルの高潮が押し寄せ、家々は、住民ごと流されたそうです。家の跡には、家財道具が散らばり、道には、衣服が散乱していました。細い川を小船で行くのですが、人や家畜の死体の一部もまだ浮いていました。

栄養不良はさらに深刻になる懸念があるということですが、どのように取り組んでいきますか。

栄養事業では、看護師が村々を回り、子ども達の栄養状態を測定し、保護者に特別の栄養治療食を渡しています。また、母親を失った乳児のために、粉ミルクを与えないよう栄養教育を行い、乳母を捜すこともしています。水が清潔でなく、消毒することが難しい災害後の農村部では、汚染された粉ミルクを与えることで、乳児が感染症にかかり死亡する危険性が高いのです。子どもの栄養状態を継続的にモニターすることにより、状態が悪化してもすばやい対処が可能になります。この国では５歳未満児の３割以上が栄養不良です。今まで、給食や栄養教育を実施してきましたが、今後は、収入向上にも力を入れる予定です。

実際にミャンマーで子どもたちと触れ、一番嬉しかったことは何ですか。

子ども達は、どんなに厳しい環境でも、決して打ちひしがれたりすることなく、遊び、学び、成長していきます。子ども達の笑顔を見ると、一番嬉しいです。



Topics!

東京にて ワールド・チルドレン・フェスティバル開催



2008年4月2日、東京の六本木ヒルズにてワールド チルドレン フェスティバル 2008を開催しました。春のあたたかな天候にも恵まれ、1000人以上の方に来場いただきました。「世界の子どもたちのことを見よう！知ろう！体験しよう！」をテーマにした今回のフェスティバルは、多くの方に気軽にセーブ・ザ・チルドレンの活動に参加してもらいたいと企画し、ステージイベントから子ども参加のワークショップ『スピーキング・アウト』まで、一日を通じてさまざまな催しを行いました。

オープニングステージには、スペシャルゲストとして藤井フミヤさんが登場。２児の父親として考えていることや子どもたちの未来への想いを語っていただきました。トークの後にはF-BLOODから歌がプレゼントされました。世界の子どもたちへの想いが込められた二人の歌で、会場があたたかい雰囲気に包みこまれました。

会場には、子ども連れの外国人参加者の姿も多くみられ、またボランティアにもネパールやインドネシアといった海外からの留学生が参加するなど国際色豊かなフェスティバルとなりました。今回のフェスティバルが国籍や年齢を超えて、一緒に世界の子どもたちのことを考えて、行動するきっかけになればと願っています。

フェスティバル開催にあたって、ご協力いただきました出演者、企業、ボランティアスタッフのみなさまに心より感謝申し上げます。



Partnership パートナーニュース

ミャンマー災害緊急支援に多くの企業からご支援いただいています。
また、一般の方が気軽に参加できる多様なご支援方法が増えています。

●ミャンマー・サイクロン緊急支援活動

今回の災害に際しては、たくさんの企業から迅速な支援をいただきました。また、今後必要とされる長期的な状況改善のための活動資金調達にもご賛同いただいています。



株式会社 クリード
住友商事株式会社
株式会社 ゼンショー
社団法人日本外交協会
（品川区/株式会社セイエンタープライズ/横浜市）
日本航空
特定非営利活動(NPO)法人　ネットワーク『地球村』
株式会社ファミリーマート
ボストン コンサルティング グループ(BCG)
株式会社ホテルオークラ東京
三菱商事株式会社

主要協力企業リスト(五十音順)

●株式会社TBSテレビ

2007年秋に実施されたTBSの人気番組「学校へ行こう！ＭＡＸ」からのご支援により、カンボジアのプルサット州ヴィエルヴェン郡ドゥーンネアック村に公立小学校の新校舎が完成しました。約半年の間村の人々自らが建設に参加してできあがった校舎は先生や子どもたちに大切に利用されており、カンボジア政府から番組宛てに贈られた感謝状とメダルは番組の中で紹介されました。このご協力は番組での企画から始まり、全国のファミリーマートにて番組とのタイアップ商品を販売したキャンペーンにより実現しました。





●有限会社フィルター・インク



人気ハウスDJ/クリエイターMAKAIと、ボーカリストMary、コンポーザー/アレンジャーIwaya Shigeruの3人がチャリティプロジェクト「MiM」（ミィム）としてアルバム「Face to Face」「Lovers」を発売し、CD売上一枚につき100円をご寄付いただいています。すでに両アルバム合わせて2万7000枚以上が出荷されました。同社は音楽事業だけでなく、カラーセラピーや赤ちゃんグッズの販売も手掛けており、社会貢献へも積極的に取り組んでいます。

Charity Gala 2008

第21回『ドン ペリニヨン セーブ・ザ・チルドレン チャリティ・ガラ』



世界最高峰のシャンパン「ドン ペリニヨン」の日本総代理店MHDディアジオ モエ ヘネシーと100年以上の歴史をもつ帝国ホテルのご協力による『ドン ペリニヨン セーブ・ザ・チルドレン チャリティ・ガラ』が5月17日帝国ホテル・富士の間にて開催されました。第21回となる今年も、昨年に引き続き秋篠宮妃殿下のご臨席を賜わりました。また、コンサートでは日本を代表するピアニストの小山実稚恵氏によるクラシックピアノ演奏が披露され、ドン ペリニヨン醸造最高責任者、リシャール・ジェフロワ氏による日本初登場のVintage2000発表とスペシャルディナーをSCJの活動に賛同された300名の参加者が堪能されました。SCではチャリティイベントの会費・寄付を世界中で展開する子どもたちを支援するための活動や緊急援助活動に役立てています。

（ご参加頂いた方々、ご協力いただきました企業、アーティスト、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。）